

平成31年度（令和元年度） 具体的な学校経営計画

1 進路志望を実現させる学力の保証

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
①主体的・対話的で深い学びを育成する授業	3年次団	生徒の主体的な学びの育成を行うために指導方法を工夫・研究できた。また、普通科では二次試験で通用する力を身に付けさせる授業展開を行い、深い学びを育成できた。	教員アンケートによる肯定群の割合 A：80%以上 B：60%以上	現在、二次力を身につける授業や主体的な学びの育成に取り組んでいるところである。1月には教員アンケートを実施する予定である。	B	教員アンケートによる肯定群の割合が80%以上である。それぞれの教員が主体的な学びになるように、また二次力がつくようによく工夫し丁寧な授業展開が行えた。	A	
	教務課	授業の受け方を中心とした、高梁高校学習指導のスタンダードの定着を図る。	アンケートによる定着度 A：全生徒の80% B：全生徒の60% A：全教員の90% B：全教員の70%	現在定着を図るため取り組んでいるところである。1月には教員・生徒に対しアンケートを実施して過年度比較を行い、更に改善していく予定である。	B		授業前の生徒の状況に関しては、できている、概ねできていると回答した生徒が92.6%と定着が見られた。教員の授業の取組に対する生徒の回答は71.9%と、更なる授業に対する工夫が必要であることが改善点としてみられた。	B
②教員研修の充実	教務課	学習指導要領の改訂に向けた授業改善のために、深い学びにつながる授業の調査研究を進める。	課員内の公開授業の実施 A：9回以上の実施 B：5回以上の実施	現在、2名の課員が公開授業を行っており、秋の公開授業週間を中心に課員全員が行う予定である。	B	B	課員のべ11回、全員が公開授業を行い、自己の授業改善につなげることができた。	A
	授業研究部会	各教科の授業見学期間を年2回設定し、多くの参加を募るとともに、個々の授業改善につなげる。	A：常勤教員が平均2回以上参加 B：常勤教員が平均1回以上参加	第1回の見学期間では、常勤教員が平均1.5回見学を行った。第2回の見学期間では、見学状況を日々グラフで掲示して積極的な参加を促す。	B		第2回の見学期間では、常勤教員が平均2.2回見学を行い、第1回より回数が増加した。年間を通じた見学回数は平均1.9回であったが、授業改善に向けて各教員が積極的に授業見学を行うことができた。	B
③新大学入試への対策	進路課	大学入試新テストの研究、ポートフォリオの研究に努め、進路決定のための情報収集、情報分析、情報発信する。	アンケートによる理解度 A：全生徒の70% B：全生徒の50% A：全教員の80% B：全教員の60%	アンケートは1月に実施予定。研修などに積極的に参加し、職員会議で情報発信に努めている。生徒、保護者への情報発信も更に充実させていきたい。	B	大学入学共通テストについて85%の生徒が意識をしているが、47%の生徒が対策に不安を感じている。対策を講じている生徒はわずかであった。教員の24%が、十分な把握が出来ていないと答える。共通テストを意識した授業をしていると答える教員は23%であった。急な変更が続いており、早急な対応を示していく必要がある。	B	

2 自主性、多様性、協働性を持って学ぶ態度の育成

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
④手帳を用いた自己管理能力の育成	1年次団	自己管理能力の育成やポートフォリオ制作に備えて手帳の記入を定期的に点検する。	スコラ手帳の記入が毎日できている生徒 A：80%以上 B：50%以上	毎日記入できている生徒の割合は約65%であった。今後は、学習時間の確保と連絡事項等の手帳記入を呼びかけ、自己管理能力の育成を図りたい。	B	中間達成状況を受け、担任を中心に呼びかけを行った結果、毎日記入できている生徒の割合は約76%まで上昇した。自己管理能力の育成を図るため、今後も引き続き指導していきたい。	B	
⑤ICTの活用による家庭学習の充実	進路課	① ICTを活用し、知識・技能の指導を効果的におこなながら、生徒の主体性も育み、学びの活用力を鍛えていく。 ② 各教科担当者やクラス担任によるスタディサプリの効果的な活用方法を研究するとともに基礎学力の定着を図る。	① A：普通科の家庭学習時間3年次生4時間以上、1・2年次生3.5時間以上 B：普通科の家庭学習時間3時間以上 ② アンケートによる肯定群の割合 A：生徒の80%以上 B：生徒の60%以上 A：教員の80%以上 B：教員の60%以上	① 普通科の家庭学習時間、3年次生3.6時間、2年次生3.6時間、1年次生2.4時間となっている。 ② アンケートは1月に実施予定。3年次生の利用定着は進んでいるが、1、2年次生の取り組みは改善の余地がある。	B	① 普通科の家庭学習時間、3年次生3.6時間、2年次生3.0時間、1年次生2.8時間となっている。 ② 1、2年次の85%の生徒がサプリの活用を行っている。利用頻度の高い生徒にはおおむね好評である。1、2年次生の取り組みは改善の余地がある。	B	
⑥総合的な探究・学習の時間「方谷学」の充実	総合的な探究・学習の時間係	外部機関との連携を通じて、教員の指導力を向上させ、総合的な探究・学習の時間の充実を図ることが出来る。	A：効果的な教員研修を実施することができた。 B：教員研修を実施することができた。	7月に教員研修を行い、指導力を向上させることが出来た。	A	B	9月に実施した1年次の探究学習の振り返りを行い、教員の指導力向上に繋げられた。	A
	2年次団	総合的な学習の時間で、生徒が自らの将来に繋がる研究と、地域の為になる具体的な提案が出来る。	生徒アンケートによる達成度 A：80%以上 B：60%以上	「方谷学成果発表会」を目前に控え、各班内で発表を行う段階である。準備に関しては多くの生徒が前向きに取り組んでいる。	B		「方谷学成果発表大会」は、各班が無事にそれぞれの研究成果を発表することができた。自分の活動について「非常に満足」「満足」が88%。	A
⑦主体的な生徒会活動、ホームルーム活動、家庭クラブ、部活動等への活性化	2年次団	生徒が自主的に、ルールやマナーについて考え、よりよい学校生活についての具体的提案を行う。	A：問題提起をし、かつ具体的な提案ができ、ルールの見直しに繋がった。 B：問題提起をし全校に発信できた。	校内スマホ利用について、二年生中心に問題提起ができ、松籟祭において試行の形で利用ルールの見直しが行われた。日常生活についても考察を続ける。	B	校内スマホ利用について、松籟祭での試行を踏まえ、利用ルールの見直しを提案できた。日常生活については現状を踏まえ、自主的な清掃活動の計画・実施が実現。	A	
	生徒課	生徒会行事（松籟祭など）を各種委員等と連携し、主体的に取り組もうと意識する生徒を育てる。	松籟祭アンケートでの肯定的回答 A：90%以上 B：80%以上	松籟祭アンケートでの肯定的回答 95.0%	A	松籟祭アンケートでの肯定的回答 95.0%	A	

平成31年度（令和元年度） 具体的な学校経営計画

3 学校組織の活性化（チーム力の向上）

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
⑧働き方改革の推進	管理職	① 時間外業務時間の削減 ② 業務や組織のスクラップや見直しの推進	① A：学校全体昨年比5%減 B：学校全体昨年より減少 ② A：スクラップができた。 B：見直しができた。	① 8月までで0.3%増加した。課長や主任に協力を仰いだ成果により、増加時間が抑えられている。 ② 実力考査の内容を見直して課題考査と統合し、各年次1回削減した。	B	① 12月までで2.7%減少した。課長や主任に協力を仰いだ成果が継続している。 ② 新たなスクラップとして、定例の職員会議は連絡事項を省略し、研修と議題のみにした。	B
⑨魅力的な広報戦略と生徒募集活動の充実	総務企画課	① 生徒の活動を前面に出したオープンスクールの実施 ② 本校主催の学校説明会の充実	① 生徒スタッフによる運営・活動についてのアンケートでの肯定的回答 A：90%以上 B：80%以上 ② A：参加者120名以上 B：参加者100名以上	中学生を対象にした①のアンケートの肯定的回答は100%であった。②については、2回の実施時期等をずらして参加者数の増加を図りたい。	B	①については、目標を達成できたものの、②については、2会場での参加者数は20名であった。	B
⑩140周年に向けての企画推進	140周年記念委員会	① 準備委員会による具体的な計画決定 ② 実行委員会による計画の推進	A：具体的な計画が全て決定し、予定通りに進んだ。 B：具体的な計画が全て決定し、70%程度進んだ。	① 9月までの準備委員会により、大まかな計画が立てられた。 ② 11月からは実行委員会となり、具体的な計画を推進する。	B	11月からは実行委員会となり、具体的な計画について担当ごとに進めている。進捗状況は70%程度である。	B
	家政科	生徒主体で家政科生徒全員が参加できる形で、140周年を盛り上げる企画をする。	A：生徒主体で企画が実施できた。 B：家政科で新たな企画ができた。	新1年次生の制服は完成した。他の企画については、検討中である。	B	家政科生徒全員で140周年記念として、つまみ細工のフラワーボックス「心華」を製作した。また、土産の「ほのぼの雛」も製作するよう準備中である。	A
	文化課	同窓生から情報を集め、140周年に向けて同窓生が執筆した同窓生文庫を新設する。	A：同窓生文庫を新設し広く紹介することで活用を促すことができた。 B：同窓生文庫を新設できた。	図書館入り口に同窓生である著者の紹介文を添えた同窓生文庫を新設することができた。生徒達は興味深そうに見てはいるが、著書の貸し出しには至っていない。	B	11月には同窓生文庫に著書3冊（内新刊1冊）を追加することができた。同窓生文庫を新設することで、生徒達に本校創立140周年と幅広く活躍している同窓生の存在を知らせることができた。	B
⑪安心安全な学習環境づくり	厚生環境課	① 校内美化活動に高い意識を持って取り組むことができる生徒を育成する。 ② 非常変災等対策計画書の見直しを行う。	① 3分前に清掃場所に行くことができた生徒の割合 A：70%以上 B：50%以上 ② A：非常変災等対策計画書に事項別危機管理の要点を示すことができた。 B：例年通りの非常変災等対策計画書を作成できた。	① 清掃の5分前にチャイムを鳴らすことで、早めの移動を促すことができた。（割合は年度末に調査予定。） ① 美化委員による、清掃時間に音楽を流すなどの自主的な活動を継続させることができた。 ② 非常変災等対策計画書に事項別危機管理の要点を示すことができた。	A	① 清掃5分前のチャイムで、ほとんどの生徒が清掃場所への移動を開始することができた。 ① 美化委員が清掃点検を行い、全校生徒に対して校内美化を呼びかけることができた。 ② 非常変災等対策計画書の見直しを行い、さらに大雨や台風時の迅速な避難を目的とした避難確保計画を作成することができた。	A
	生徒課	① 定期的な校内巡視計画を立て、実施する。 ② いじめを認知するためにアンケート調査を3回実施する。	① A：実施率95%以上 B：実施率80%以上 ② A：3回実施し、いじめを発見・解消することができた。 B：3回実施し、いじめの解消に向けて取り組むことができた。	① 校内巡視を昼休みに実施しており、ここまで実施率は100%であり、放課後の巡視も年次団に協力を仰ぎ実施した。 ② 7月に1回目のアンケートを実施した。	B	① 校内巡視を昼休みに実施しており、実施率は100%であった。 ② 11月に2回目のアンケートを実施した。2月に3回目を計画している。嫌な思いをしたと回答した生徒も出ており、いじめの早期把握のため、来年度も実施する予定である。	A